

# 未来を見据えた

## 「攻めの行政運営」にまい進

### 益城町長 西村博則

**新**

年を迎えるに当たり、町民の皆さまに謹んで

ごあいさつを申し上げます。

昨年を振り返りますと、7月の梅雨前線豪雨により、甚大な被害が発生しました。被災された皆さま方に対し、心よりお見舞い申し上げます。引き続き、完全復旧に向け全力で取り組んでまいります。

また、新型コロナウイルス感染症が「5類」に移行し、「木山初市」、「砥川神社秋の大祭」や、町主催の「ジョギングフェア」、「きままにスポーツ健康フェスタ」などのイベントが再開でき、町に活気が戻ってまいりました。

熊本地震からの復興では、最後まで残っていました木山仮設団地が3月末に閉鎖され、5月には新しくなった役場庁舎で業務を開始、6月には「震災記念公園」がオープンし新たな町のランドマークとして町民の皆さまの憩いの場となっております。

また、県道熊本高森線の4車線化が広崎まで供用開始し、阿蘇くまもと空港新旅客ターミナルビルの開業、東海大学阿蘇くまもと臨空キャンパスの開校など、復興を象徴する

施設が次々と整備され、町の「創造的復興」、「完全復興」に向けて着実に前進した年となりました。

その他の動きとしまして、長年の懸案でありました益城台地土地区画整理事業では、西地区の宅地分譲が始まり新しい「街」が見えつつあります。さらに、本県へのTSMCの進出が、本町への関連企業の進出にも確実につながっています。

このような中、本年は、4月に県道熊本高森線の4車線化が「惣領」まで供用開始する予定であり、また、空港周辺においては、「臨空テクノパーク」の整備や県が新たに策定した「新大空港構想」の推進、さらに、グランメッセ熊本北側に町として初めての産業団地を整備してまいります。

新住宅地としましては、益城台地土地区画整理事業西地区と共に、中地区が本格的に動き出し、確実に人口増につながってまいります。

このように本年は、本町にとりまして、移住・定住の促進や産業の活性化、新たなぎわいづくりに向けて、大きく町が成長するまたとない機会の年です。

町としまして、この機会を逃すことなく「攻めの行政運営」に取り組みとともに、いまだ仮住まいを余儀なくされておられる皆さまが住まいの再建を果たされるよう、最後のお一人まで寄り添ってまいります。

本年も、変わらぬご支援、ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます、新年のごあいさつといたします。

